

オピニオン「オープンカレッジ」

商学部杉浦礼子准教授の「CSVの時代～社会と企業の共有価値創造へ～」が掲載

●中部経済新聞 2018年1月9日(火)

Opinion オピニオン



松の内が明け、仕事モードのスイッチに切り替わった人が多い時期だろう。昨年を振り返ると、社会では働き方や女性活躍推進が活発に議論された。また、EC市場の活況で物流のラストワンマイルの問題が顕在化した。企業経営においては、データの改ざんや違法な長時間労働をさせていた企業が明るみに出た。持続的な成長を期待され、株主価値経営を追求し続けるなかで、倫理観が低くなった

CSVの時代

社会と企業の

共有価値創造へ

企業の結末であらう。

株主価値経営に対して、共有価値経営の概念がある。いわゆるCSV (Creating Shared Value) である。CSVは、マイケル・ポーター教授らが提唱した概念で、地域社会が抱える



名古屋学院大学
商学部准教授

杉浦 礼子

すぎうら・れいこ 地域イノベーション学。三重大学大学院地域イノベーション学研究科博士後期課程修了。博士(学術)。1970年生まれ。

問題に、企業が本来事業で取り組み解決することで利益を生む、社会的価値と企業価値の双方を創造する考え方である。

現代、CSR (企業の社会的責任) を掲げ、環境・社会貢献活動に取り組む企業は多い。CSRとCSVは、社会と企業の持続的発展に寄与する概念である点は共通している。しかし、CSVは本来事業に結びつかない事例があることを指摘し、ポーターは一線を画している。

また、社会的価値と企業価値を創造する方法として、①製品と市場を見直す②バリューチェーンの生産

た自動車や家電、日用品などを開発したプロダクト・イノベーションの事例、全体最適の発想で物流の最適化を図り低炭素活動を実現しつつコスト削減や積載率向上を実現した事例、働き方を見直し従業員および顧客満足度を向上させた業績向上に結び付けた事例、耕作放棄地が増加している茶産業界の問題を解決しつつ自社の安定調達を実現したプロセス・イノベーションの事例など、多様な成功事例が生まれている。

性を再定義する③企業が拠点を置く地域を支援する産業クラスターをつくることを示している。つまり、地域社会が抱える問題を発見し、それを解決する新商品やサービス、事業を創出する。最終消費者までのモノの流れや事業活動を見直し、最適化を図り、地域や企業が抱える問題を解決する。地域に産業クラスターを形成し、人材育成・確保やインフラの整備を促進、経済効果を高める。これらの方法で、社会的価値と企業価値の双方を創造するのである。

茶産業界の問題は生産量全国3位の三重県でも生じているが、市場価格より高値で地域の茶葉を買い取るところで茶栽培を継続させつつ和紅茶に高付加価値化して収益を上げている事例がある。また、子育て中の母親が集い仕事と育児を分担する働き方を構築し、女性が活躍して茶産業界を維持しつつ所得を得ている事例もある。事業規模の大小にかかわらず、取り組むことができることも魅力である。

大学時代、環境配慮型製品政策の必要性を説きつつ、当時は高額でデザイン性が劣るモノが多く、購入する消費者は少ない、と恩師が語っていたことを思い出す。あれから30年、飛躍的に技術は向上した。また、学生と接するなかで環境意識の高さに感服し、消費者が成長していることを実感する今、社会と企業の共有価値の創造に多くが取り組み、シナジー (Synergy) を創造することに期待したい。